Yumeハブ合宿開催







ワークショップの成果を共有

2019年度は、2018年度の取り組みのレビューを踏まえて、Yume Proに関するグループ内の認知と理解を一層高めるため、経営トップによる「Yume Proフォーラム」を各地で開催し、約1,000名の社員が参加する予定です。

また、部門ごとにイノベーションのエバンジェリストを育成する [Yumeハブ] を開始しています。

2019年10月4~5日にホテルフクラシア晴海において、Yumeハブ・メンバーとイノベーション推進部、IoT ビジネス開発室、IoT-AP推進部、研究開発センターが合宿を行いました。川崎会長から、OKIグループとして何 故Yume Proに取り組むのか、トップマネジメントのビジョンと戦略に関するプレゼンを踏まえ、Yume Pro をグループ内に広め、どのように定着させていくかについて討議しました。



Yumeハブ合宿にて川崎会長を囲んで

OKI 沖雷気工業株式会社

お問い合わせ先

経営基盤本部 イノベーション推進部 〒105-8460 東京都港区虎ノ門1-7-12 (虎ノ門ファーストガーデン) 電話:03-3501-3821 https://www.oki.com/jp/yume_pro/

Yume Pro News





Vol.3-2 2019. November

https://www.oki.com/jp/yume_pro/

Yume Proチャレンジ大賞「AIエッジロボット」がCEATECに登場

人手不足業界の省力化を目指す

2019年4月に行われた社内アイデアコンテスト「Yume Proチャレンジ2018」で大賞を獲得したAIエッジロボット。日々、深刻化する人手不足という社会課題を解決するソリューションを、受賞後5か月で試作し、CEATECに出展しました。

このアイデアの原点は、共創パートナーの施設点検、防犯・見守り、倉庫の在庫チェックといった分野の人手不足が解消できないかという出発点でした。そこで出てきたのが、ロボットと人間の協調作業により、人間一人で複数のロボット



※1 フライングビュー®:自由視点の俯瞰映像モニタリングシステム。沖電気工業株式会社の登録商標。 ※2 LiDAR (ライダー): Light Detection and Rangingの略。光検出・測距技術

を遠隔操作することで省人化に貢献するアイデアです。そのためには、人間では見逃しがちなポイントを ロボットにより監視し、ロボットでは対応が難しいきめ細かな作業を人間が行う必要があります。このよう なニーズに対応することで警備などの現場効率を倍増することを目指します。



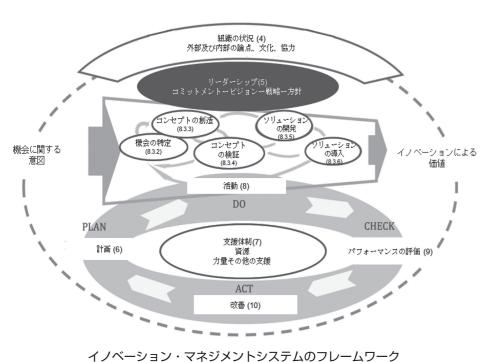
OKI AIエッジロボットの特徴

OKIのAIエッジロボットは、管理対象の施設を360度自由視点でリアルタイムに俯瞰できるAI機能を搭載。自律的に広範囲な施設の監視を可能とします。また、ロボット単独では作業が難しい状況ではオペレーターが遠隔でロボットを制御することで高度な対応が可能です。

これにより、オペレーター―人で約10台程度のロボットを同時に遠隔制御することで生産性を高めることができます。

CEATECでは多くの方から、コンセプトに賛同を頂きました。今後、施設管理、防犯見守り、物流等の分野で共創活動を進めていきます。

OKIイノベーション・マネジメントシステム(「Yume Pro」)



出典:日本規格協会「ISO 56002 イノベーション・マネジメントシステム手引き」より

国際標準 ISO 56002採択

OKIは、2017年度から、鎌上 社長のリーダーシップの下で、グ ループ内に新たなイノベーション・ マネジメントシステム (IMS) の策 定、導入、定着、改善等を行う活動 を進めています。これは、2019年 7月に発行されたIMSの国際標準 (ISO 56002) を先行的に導入し、 定着・浸透を図る取り組みです。

OKIイノベーション・マネジメントシステムは、ブランドスローガン「Open up your dreams」にちなんで「Yume Pro」と命名しています。

......

国際標準準拠の取り組みYume Pro

OKIグループは、1881年の創業以来、社会課題解決を柱として事業を行ってきました。これを受け、Yume Proは、国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) 実現への貢献をビジョンとして掲げています。

また、ISO 56002において指摘されるように、イノベーション活動を促進するためには、社内文化改革が重要です。Yume Proでは、創業者が掲げた「進取の精神」に立ち返るべく、2018年度から5年間で、イノベーション・パートナーとしてのブランドを確立することと併せて、イノベーションが日常的な活動となる社内文化を実現することを方針に掲げています。

JINイノベーションマネージメントフォーラムに登壇

2019年10月16日(水)、イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の国際規格が発行されたことを記念し、この規格作りに当初より参画してきた一般社団法人Japan Innovation Network (JIN)が、同規格の策定に携わった米、スウェーデン代表を招いて日本橋ホールにてフォーラムを開催しました。



本フォーラムにOKIの横田CINOが登壇し、OKI

JINイノベーションマネージメントフォーラムに登壇する横田CINO

のイノベーションマネジメントシステムYume Proへの取り組みを紹介しました。300名収容の会場が、企業経営者、企業内イノベーション推進責任者でほぼ満席となり、関心の高さを感じました。

経済産業省 行動指針を発表

ISO 56002の採択を受けて、経済産業省は、企業向けガイダンス「日本企業における価値創造マネジメントに関する行動指針」を2019年10月に発表しました。この行動指針策定に際して、OKIの川崎会長は、経済産業省のイノベーション100委員会に招かれ、Yume Proを主導している経験を踏まえて提言を行いました。

川崎会長発言を紹介

行動指針の中で川崎会長の以下の発言が紹介されました。

「市場そのものが変わるので、CEOそのものが変わらなければ決して守護神にはなれない。やはりものすごく熱い思いを持っている。神ですから、ある意味では。守護神としてリードする場面もあれば、大きな懐で守る場面もある。」



イノベーション100委員会でのコニカミノルタ山名社長(左)とOKI川崎会長

「ただ2階建てにすればいい訳ではない。経営者が先頭に立って全社教育を行い、理解を浸透させて1階のリソースで2階を支援する体制を作ることが必須だ。」

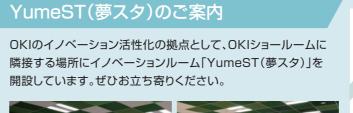
「お客様とお互いのSDGsへの取り組みを話し合う。お互いの課題を共有し、協力して解決しようという現場での地道な対話が、事業機会にもつながっていく。」

企業の挑戦事例にOKIの事例を紹介

また、ガイダンスの行動指針9「価値創造活動においては、小さく早く失敗し、挑戦の経験値を増やしながら、組織文化の変革に取り組む【組織経験】」の中で、OKIの事例が紹介されています。

■経済産業省 日本企業における価値創造マネジメントに関する行動指針 (PDF形式: 2,335KB) https://www.meti.go.jp/press/2019/10/20191004003/20191004003-1.pdf







イノベーションルーム Yume ST(夢スタ) OKI虎ノ門本社2階

-2-